

ふるさと
ふたば



序章

ふるさと双葉

集う
継ぐ
憩う
育む
蘇る

双葉の今

名誉町民／双葉町民の歌／ふたば音頭

ふるさと 双葉



カワセミ
(新山地区)

双葉町は東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所の事故が起きる前、豊かな自然と歴史、子どもから大人まで町民が生き生きと暮らす町だった。かつての町民の様子や文化財、自然、町並みを写真で再現する。ダルマ市での巨大ダルマ引きやダルマ神輿、海岸での初日の出参拝、十万山への町民山登り運動など思い出は尽きない。ふるさとをいつまでも忘れず、そして、新たなふるさとづくりを進める誓いをしたい。



奉納神楽



双葉駅からくり時計
Futaba Station



標葉せんどん太鼓



ダルマ市ダルマ神輿



三二野馬追



源弱山の火明かし



イルミネーション



特急ひたち



スポーツフェスティバル



町民体育祭



町民盆踊り大会



夢王国ふたば 和太鼓教室演奏



初日の出参拝



ダルマ市露店



町民山登り運動

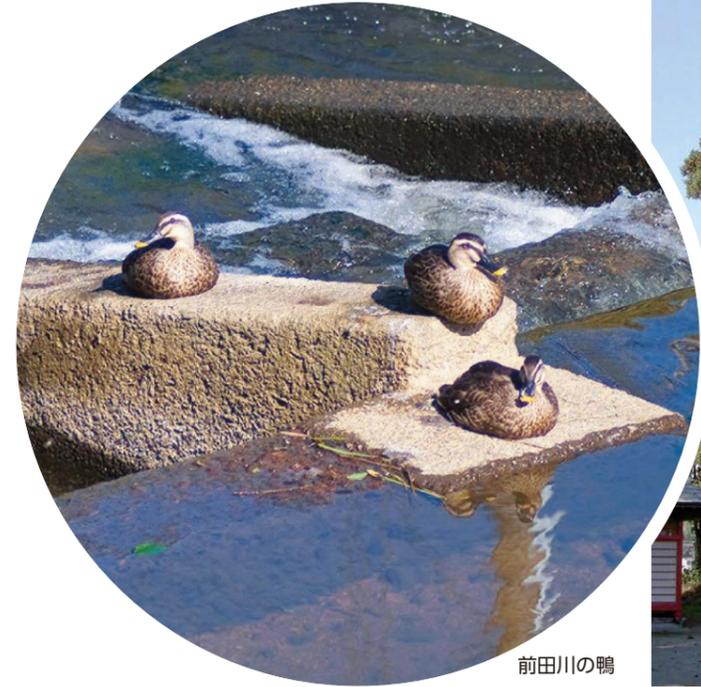


ふたば幼稚園海岸保育

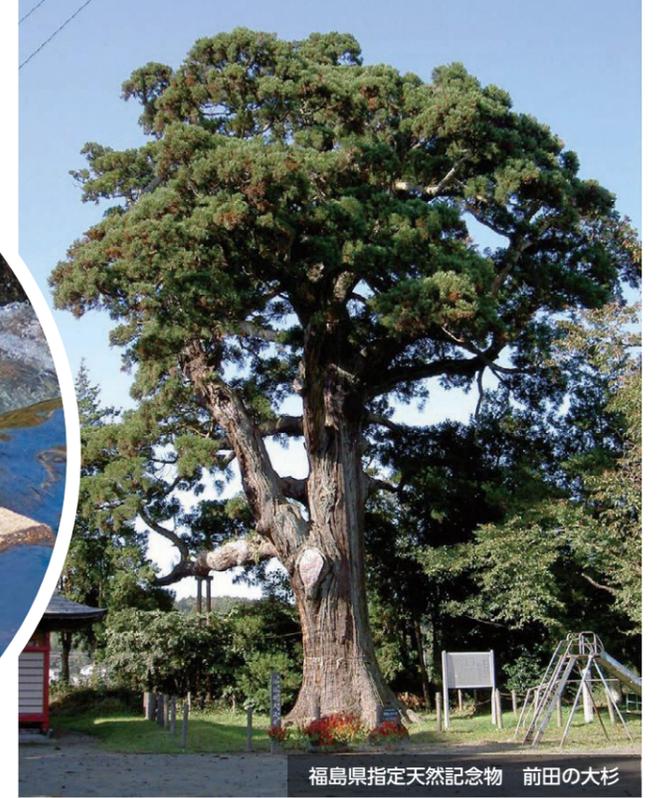
集う



国指定史跡 清戸迫横穴



前田川の鴨



福島県指定天然記念物 前田の大杉

町指定文化財



新山城跡



阿弥陀如来坐像



十一面観世音菩薩坐像



両竹磨崖仏



鴻草磨崖仏



新山の町並み



歴史民俗資料館



前田川堤防の菜の花

継ぐ



双葉海水浴場



紫陽花(羽鳥地区)



双葉ばら園(山田地区)



水生生物観察会



昔遊び体験



フタバフルーツランド梨(寺松地区)



スイートピー(三字地区)

営み



健康ウォーキング



図書館前の桜



浜風ほうれんそう(郡山地区)



谷沢町から望む稲田



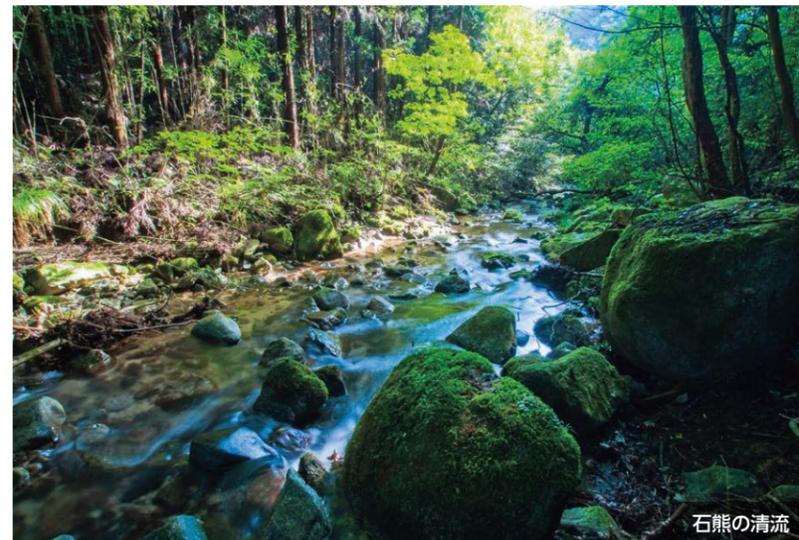
竹林(山田地区)



砂防ダム(石熊地区)



双葉海浜公園内キャンプ場



石熊の清流



ハッチョウトンボ(世界最小)郡山地区

憩う



育む

〈震災前年 平成22年の町の様子〉

緑豊かな田園風景、町民の暮らしを支えた商店街、住民の足となっていたJR常磐線。東日本大震災前年の平成22年に撮影した写真である。以前の「ふるさと双葉」が蘇る。



蘇る

双葉の今

全町避難を余儀なくされた双葉町は今、復興への足音が少しずつ大きくなっている。令和2年秋には双葉再生の象徴となる町産業交流センターと福島県東日本大震災・原子力災害伝承館が完成した。令和4年8月27日に町役場新庁舎が駅東側に開庁し、8月30日に特定復興再生拠点区域の避難指示が解除となって、震災後初の居住が可能となった。







名 誉 町 民



(故)小野田 忠氏

明治27年9月16日に双葉町新山生まれ。昭和18年、双葉町に現オノダ精機株式会社を設立。本町の産業振興と安定した雇

用対策に努力され、本町市政振興に貢献された。

国及び県に対する貢献も大きくその功績は高く評価され、紺綬褒章、藍綬褒章、勲三等旭日中綬章、勲二等瑞宝章を受章、また県外在住者知事表彰、都知事表彰、国の発明賞受賞など、数々の栄誉を受けた。



(故)天野 光晴氏

明治40年3月26日に双葉町山田生まれ。大正14年、双葉町を離れられて以来、常に愛郷の念に燃え、本町の発展と地域の幸せを願い、特に双葉海岸離岸堤

の建設、前田川大型砂防ダムの誘致建設、さらには地域交通体系の促進確立など、本町市政振興と地域開発のため大きく貢献された。

また国政にあたって建設大臣、予算委員長、建設常任委員長、土地問題特別委員長、水資源開発特別委員長、国務大臣国土庁長官、その他多くの職を歴任されるとともに、衆議院掲額議員であり、多年の功績により勲一等旭日大綬章を受章された。

双葉町民の歌 ——未来みつめて——

作詞／武内敏子 作曲／山岡賢舟

- 一 梅^{うめ}檀^{だん}芽^めを^をふく 双葉の空に
四季を^をいる^{どる} 阿武隈の山
椎^い葉^はの野^の辺^は 風^{かぜ}さわやかに
清^{きよ}き流^{なが}れに 大地は^はひらく
あ あ 緑^{きよ}あふれる 双葉町
- 二 さくら花^{はな}咲く 双葉の里に
古^{ふる}きを^をしのぶ 清^{きよ}戸^との迫^{せま}は
高^{たか}い文化^{ぶんか}の 薫^{かほり}を残^{のこ}し
誇^{ほり}豊^{とよ}かに 心^{こころ}を結^{むす}ぶ
あ あ 伝^{でん}統^{とう}ふかき 双葉町
- 三 大洋波^{おやうは}うつ 双葉の浜^{はま}に
若^わさみな^{ぎる} 集^あいの灯^{あかり}
未^み来^{らい}みつめて 力^{ちから}を育^{つちか}へ
大^{おほ}きな夢^{ゆめ}に は^はばたく雉^き子^こよ
あ あ ゆく手^て輝^かく 双葉町
- 〔注釈〕
* 町民憲章の主旨を生かし、飛躍する双葉町を表現した。
* 双葉町は、古来、椎葉（標葉）郷とよばれていた。
* 清戸は（キヨト）、迫（サコ）と表音する。

ふたば音頭

作詞／藤田鶴悠芸 作曲／山岡賢舟 編曲／佐々木ひろし

- 一 桜^{さくら}かすみに 柳^{やなぎ}が招^{まね}くよ
招^{まね}く柳^{やなぎ}に つい誘^{いざな}われて
嬉^{うれ}し恥^はかし バラ^{ばら}が咲^さく
双葉よいとこ 見^みに来てごらん
踊^{おど}り輪^{りん}になる 輪^{りん}が花^{はな}になる
み^みんな揃^{そろ}って 総^{そう}おどり総^{そう}おどり
- 二 前^{まへ}田^{でん}大^{だい}杉^{しん} 十^{じゅう}万^{まん}山^{さん}か^かくすよ
か^かくれたお山^{やま}に ゆ^ゆかたを^を着^きせて
一^{いち}度^ど見^みせたい 盆^{ぼん}おどり
双葉よいとこ 太^{たい}鼓^こが^がひびく
踊^{おど}り輪^{りん}になる 輪^{りん}が花^{はな}になる
み^みんな揃^{そろ}って 総^{そう}おどり総^{そう}おどり
- 三 歴^{れき}史^し 俣^ひばす や^やかたの跡^{あと}によ
誰^{たれ}れを^を待^{まち}つや^ら す^すすぎが招^{まね}く
幼^こ馴^な染^{ぞめ}も お^お年^{とし}ごろ
双葉よいとこ 帰^{かえ}っておいで
踊^{おど}り輪^{りん}になる 輪^{りん}が花^{はな}になる
み^みんな揃^{そろ}って 総^{そう}おどり総^{そう}おどり
- 四 西^{にし}に阿^あ武^ぶ隈^{かい} お^お化^け粧^{ざい}すればよ
福^{ふく}が来^きる来^きる ダ^だル^るマ^まが笑^{わら}う
起^おきて転^{てん}んで 又^{また}起^おきて
双葉よいとこ 根^ね性^{せい}どころ
踊^{おど}り輪^{りん}になる 輪^{りん}が花^{はな}になる
み^みんな揃^{そろ}って 総^{そう}おどり総^{そう}おどり